



「はじめに」

新年度最初の「図書館通信」です。今年度からご勤務頂いている5名の司書さんによる新着図書が揃いました。すべての本を取り上げることはできませんが、今回の新着本について短いですがその魅力を語ってもらいましたので、ぜひ参考にしてください。

気づいている人も多いと思いますが、司書さん方は季節に合わせてさまざまな企画を立ち上げ、本を紹介してくれています。

「4月・部活動応援」「5月・世界を知ろう」「6月・環境月間」そして現在進行中の「7月・海」。独自の視点で選んで頂いた本たちも、新着図書同様に手に取ってもらえると嬉しいです。

新着図書の紹介

新しく購入した本は、図書館に入っ
てすぐ左側、雑誌コーナー後ろの
新着図書棚に並びます。
皆さんに読んでほしい本を選んでい
ますので、図書館に来たときはぜひ見
てみてください！



『成瀬は天下を取りに行く』

宮島 未奈／著 913.6-ミ

「島崎、私はこの夏を西武に捧げようと思う」

2020年、中2の夏休みの始まりに、幼馴染の成瀬がまた変なことを言い出した。コロナ禍、閉店を控える西武大津店に毎日通い、ローカル局のTV中継に映るといふのだ…。

主人公の成瀬あかりと彼女の良き相方島崎みゆきの中2～高3までが描かれる。突然スケールの大きなことを言っただけでどんどん突き進む成瀬の挑戦とそれを見守り続ける島崎。おしゃれでも感動的でもないけど、面白くてパワーあふれる青春小説。舞台となっている大津（滋賀県）に行ってみたくなるかも。

『君のクイズ』

小川 哲／著 913.6-オ

「ママ、クリーニング小野寺よ」←クイズの回答

生放送のTV番組『Q-1 グランプリ』決勝戦に出場したクイズプレイヤーの三島は、対戦相手・本庄が、まだ一文字も問題が読まれないうちに回答、正解し優勝を果たすという不可解な事態に直面する。本庄はなぜ正答できたのか？真相を解明しようと彼について調べ、決勝戦を1問ずつ振り返る三島は、やがて自らの記憶も掘り起こしていくことに…。

答えを知りたくて一気に読んでしまう、「不可能犯罪」を解くミステリーであり知的興奮に満ちた“クイズ小説”。読めばクイズ番組の見方も変わる!?

『地域主権という希望』

～ 欧州から杉並へ、恐れぬ自治体の挑戦

岸本 聡子／著 318.93-

前回の選挙で政治経験ゼロから杉並区長となった著者が、世界各地で起きている「自治体からの変革＝ミュニシパリズム」の実例を紹介。新自由主義による地域経済と政治の劣化に歯止めをかけ、足元から公共と民主主義を再生する希望の指針を描く。これからの社会を住みよいものにするために、地域でやるべきこと、できることを共に考えるための一冊。

『ゼロからの『資本論』』

斎藤 幸平／著 S331.6-サ

コミニズムが不可能だなんて誰が言った!?

「これからも資本主義が続く」と言われて、未来に希望を持てる人は、どんどん減っているのではないか…。そんな前提から、資本主義のあり方を考えるために、マルクスの『資本論』を読みなおす。難解・長大なために、ほとんど誰も読み通せない世界史的な名著のエッセンスを、現代的な意義とともにていねいに解説する。

『目の見えない白鳥さんと

アートを見に行く』

川内 有緒／著 706.9-カ

見えない人と見るからこそ、見えてくる!

全盲の白鳥建二さんとアート作品を鑑賞することにより、新しい世界の扉がどんどん開き、それまで見えていなかったことが見えてきた！視覚や記憶の不思議、アートの意味、生きること、障害を持つこと、一緒にいること。そこに白鳥さんの人生、美術鑑賞をする理由などが織り込まれ、壮大で温かい人間の物語が紡がれていく。



『増えるものたちの進化生物学』

市橋 伯一／著 S461-イ

人間が悩むのは「長生き」だから?

生命と非生命をわけるもの、それは「増える」ことである。増えて遺伝する能力は、生物を進化させ、繁栄をもたらし、やがて私たち人間に自由と生きる喜びを与える。しかし同時に尽きることのない不安や迷いを植え付けることとなった。生の悩みから生命の起源と未来を見つける知的問答の書。

『作ろう!フライドチキンの骨格標本』

～よくわかる恐竜と鳥の骨学入門

志賀 健司／著 488.1-シ

(食べ終わった)フライドチキンが骨格標本に!

身近で手に入る素材を使って、フライドチキンの骨から骨格標本を作る方法を、豊富なカラー写真とともに解説。
また、骨を通して進化の基礎知識や恐竜と鳥の共通点などを紹介。博物館クオリティの本格的な骨格標本作りが体験できる。



『千葉からほとんど出ない引きこもりの俺が一度も海外に行ったことがないままルーマニア語の小説家になった話』

済東 鉄腸 / 著 979.1-サ

タイトル長いよ！でも、こんな人生あり!!

海外留学はおろか地元の千葉からもほとんど出ない映画オタクが、ルーマニア語と運命的に出会い、Facebook でルーマニア人 3000 人に友達リクエストをしてルーマニアメタバースを作り猛勉強。現地の文芸誌に短編小説を送りまくって、文学史に名を残す…。引きこもり生活と SNS での行動力が両立した、好きなものへのパワーが圧倒的。ぜひこのエネルギーを浴びてみて！

『その気持ち、なんて言う？』

～プロに学ぶ感情の伝え方

NHK「言葉にできない、そんな夜。」制作班 / 著

S816.8-ソ

言葉にできないこの気持ち、今宵言葉にしてみませんか？

Eテレで放送されている教養バラエティ番組「言葉にできない、そんな夜。」を書籍化。日常の言葉にできない瞬間を切り取って、小説家、ミュージシャン、俳優などのクリエイターが生み出した絶妙な表現が収められている。放送も毎回楽しくて刺激的でおすすめ！

『海外の大学に進学した人たちは』

どう英語を学んだのか！

加藤 紀子 / 著 S830.7-カ

ネイティブと同じ土俵に立たない。

そう腹をくくると英語力は飛躍する。

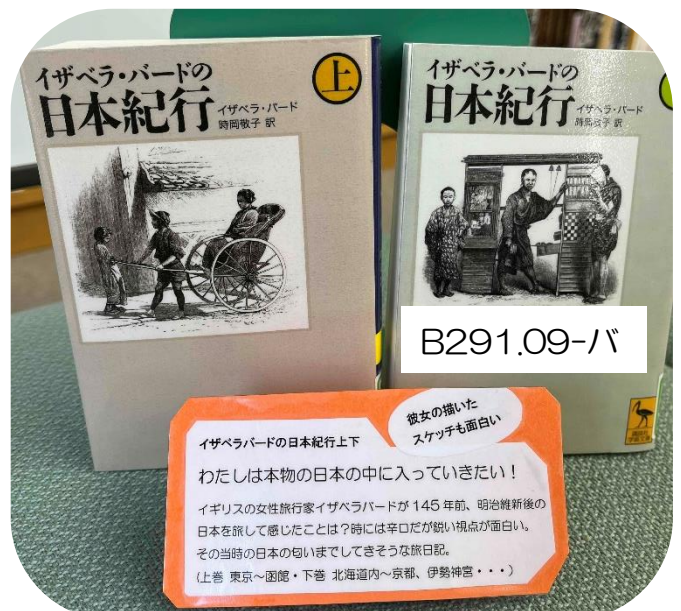
「英語は楽しい」という経験、自分に合った方法で単語力を爆上げ、独り言でも英語を話す…。日本の高校から海外の大学に進学した10名の英語学習の秘訣を体系的に紹介。専門家に聞いた、英語力を飛躍させるコツや日本人が英語を身につける利点についても参考になる。

『サードキッチン』

白尾 悠 / 著 B913.6-シ

なりたい私になるのはとても難しいです。

アメリカの大学に留学した19歳の尚美は、たどたどしい英語で会話もままならず、友人もできずにひとりぼっち。人間関係をあきらめ勉強だけに邁進していたある日、偶然言葉を交わした隣室のアンドレアとともに、さまざまなマイノリティが集まる、ある学生食堂に招かれる。臆病な自分自身と深く向き合ったとき、あふれだした思いと言葉の数々が胸を揺さぶる…。



イザベラ・バードの日本紀行上下
わたしは本物の日本の中に入っていきたい！
イギリスの女性旅行家イザベラ・バードが145年前、明治維新後の日本を旅して感じたことは？時には辛口だが鋭い視点が面白い。その当時の日本の匂いまでしてきそうな旅日記。
(上巻 東京～函館・下巻 北海道～京都、伊勢神宮・・・)



図書館活用のすすめ

夏休み、本好きの人にとってはゆっくり本が読めるチャンスですね。普段本を読まない人もこの機会に本を読んでほしいです。

自宅で過ごす時間が長いこの時期、近くの図書館を利用してみませんか？本との出会いはもちろん、いろいろな情報を手にすることができ、夏休みの学習にも頼りになりますよ。

皆さんが住んでいる区や市にある区立図書館や市立図書館を公共図書館といいます。

公共図書館は読みたい本を見つけるにも、調べものをするにも、とても便利なので、まだ行ったことがない人、子供のころは行ったことがあるけど…という人はぜひ一度利用してみてください。

自宅からでもインターネットで蔵書検索ができ、予約もできます。予約の本が準備できるとメールなどで知らせてもらえます。他の図書館の資料を家の近くの図書館で受け取ることもできます。本だけでなく CD や DVD の貸出や、電子書籍の貸出ができるところもあります。

また、図書館に行けばレファレンスサービスで調べもののお手伝いもしてもらえますし、ネット環境が整った閲覧席や学習室があるところも多いので、自習にも使えます。

それぞれでサービスに違いはありますので、まずは自分の住んでいる地域の図書館のホームページをチェックしてみてください。地域の図書館は、利用に際し、在住・在学・近隣住民など制限を設けているところもありますが、広域利用制度等により誰でも利用できるところもあります（皆さんは杉並区の学校に通っていますので、杉並区立図書館は利用者登録できます）。自分の行動範囲から行きやすいところを探してみるといいですよ。

複数の図書館を利用するときや、お目当ての図書がどこの図書館にあるかを調べるには

「カーリル」<<<https://calil.jp/>>> というサイトがとても便利。日本国内 7400 以上の図書館をカバーしており、自分が選んだ複数の図書館の所蔵や貸出状況を横断検索できます。



「編集後記」

1 学期の大きな学校行事である「鶴ヶ丘祭」が好評のうちに幕を閉じました。

1 年生の合唱コンクール、2 年生の体験型企画展示、3 年生の模擬店。

保護者の方のもとより、一般の方々をお招きしての「鶴ヶ丘祭」は、思えば 2019 年度以来、実に 4 年ぶりの開催となります。図書館も「古本・古雑誌の無料配布」を実施しました。まずまずのご来館を得たものと思っています。

当たり前を当たり前と思わない想像力、育むのに大きな力となるのは、「読書」です。

1 冊の本と向き合う、そんな時間持っていますか？